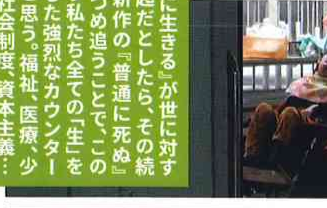




だれかが決めた普通じゃなくて  
その人の普通をその人らしく生きられたらいい  
これは地域で、たくさんの人に支えられて、支え、  
いのちを尽くして生き合う人たちの記録



前作『普通に生きる』が世に対する問題提起だとしたら、その続編であり新作の『普通に死ぬ』は、死を見つめようとして、この世に暮らす私たち全ての「生」を照らし出した強烈なカウンターパンチだと思ふ。福祉、医療、少子高齢化、社会制度、資本主義、現代社会が抱えている問題を、障害児の暮らしを通して見事に私たちの目の前に並べてみせた。



生きて、生きて、生きて、  
普通に生きて

第25回  
あいち国際女性映画祭2020  
招待作品

# 普通に死ぬ

～いのちの自立～

ドキュメンタリー映画『普通に生きる』続編



その人らしく生きて、その人らしく死ぬ。この映画はガチガチに固まった既成概念や正論に縛られ、身動きしづらくなっている私たちに、新しい考え方を提示してくれる希望の作品だった。

©2020/長編ドキュメンタリー映画/  
HD/カラー/119分  
製作: motherbird・Cinema Sound Works  
著作・配給: motherbird  
録音: 中山隆匡  
音楽: 木-Kodama- 霊  
ナレーター: 余 貴美子  
プロデューサー: 梨木かおり/貞末麻哉子  
監督・撮影・構成・編集: 貞末麻哉子



年齢を重ねてゆく重い障がいがある人とその家族…。在宅生活の中心的ケアラーが病に倒れると、残された医療的ケアの必要な人が、生まれ育った「地域で生ききる」ことはなぜこれほどまでに困難なのか。前作『普通に生きる』から十年。家族と支援者の葛藤や気付き、「一緒に生き合う」取り組みを追い、厳しい現実から希望を見出すドキュメンタリー。

